

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月6日

【評価実施概要】

事業所番号	3070102722		
法人名	株式会社 リバソン		
事業所名	グループホームなぎのやど		
所在地 (電話番号)	和歌山県和歌山市下三毛870-2 (電話) 073-465-3363		

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山市手平2丁目1-2		
訪問調査日	平成19年11月21日	評価確定日	平成19年12月6日

【情報提供票より】(19年10月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 16人, 非常勤 6人, 常勤換算 8.9人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800円			

(4) 利用者の概要(10月29日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	7 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	66 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	辻岡病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

展望に恵まれた自然豊かな場所に立地し、広いウッドデッキの庭が特徴で、殆どどの部屋から景色を眺めることができる。利用者は体操やカラオケを始め、ゲームなど多彩なレクリエーションを楽しんでおり、それが自然と認知症の進行を緩和する役割を果しているようである。近くの小学生や老人などが訪問し、職員や利用者は親しみのある態度で接している。家族には「なぎのやど通信」により、写真をつけて利用者の状況や健康状態を詳細に伝えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	グループホームの理念や役割の地域への啓発については、運営推進会議において行われている。その他の改善課題は、管理者が職員に報告し改善するよう努めている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員が取り組みの状況を自己評価し、管理者がそれを検討してまとめた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議ではグループホームの理念や目的を説明し、ホームの近況、家族会や夏祭などの行事、災害対策、事故や苦情の内容や件数、外部評価の掲示等について報告し、委員に意見を求めている。出された意見は、ホームの運営に活かすようにしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情、不満が出されたときは、管理者に報告し、苦情報告書に記載して早期解決に向け努力し、運営に反映させるようにしている。なおホームの入り口に意見箱を置いている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームに地元の小学生が訪問したり、お祭りに子ども神輿が立ち寄ったり、また近隣の老人が遊びに来たりしている。また夏祭を開催するなど、地域の人々との交流が行われている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員を含め利用者一人ひとりが家族となり、家庭的で安らぎのある環境のもと、趣味や特技を通じて自立し、明るく楽しい日常生活を送っていただくことを理念としている。	○	制度改正でホームが「地域住民との交流の下で」と、地域との関係性が重視されるようになったので、今までの理念に、地域密着型サービスとしての役割を加えることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を見やすいところに掲げ、管理者、職員は理念を共有し、日々の指針として業務に取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の小学生が訪問したり、お祭りに子ども神輿が立ち寄ったり、近隣の老人が来訪したりしている。またホームで夏祭りを開催するなど、地域の人々との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員が取り組みの状況について自己評価し、管理者がそれを検討してまとめた。前回の外部評価については、管理者が要改善点を職員に報告し、改善するように努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催し、ホームの理念や目的を説明し、家族会や夏祭などの行事、災害対策、事故や苦情の内容・件数、外部評価結果等を報告し、委員に意見を求めている。開催の都度課題を決めて委員に意見を求め、委員にはホーム運営に関する質問用紙も配布している。委員から出された意見はホーム運営に活かすようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当課の職員と運営上の相談をしているが、ともにサービスの質の向上に取り組むまでに至っていない。	○	今後も市担当課と連携を密にし、ともにホームのサービスの向上に取り組まれるよう期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは「なごのやど通信」により、写真をつけて利用者の状況や健康状態を詳細に伝えている。また、ホームでの事故やヒヤリハット事例の報告書について閲覧できる。なお、金銭の管理状況についても家族に定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見・苦情・不満が出された場合、管理者に報告すると共に苦情報告書に記載している。また、早期解決に向け努力し、運営に反映させている。ホームの入り口に意見箱を置いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はユニット間で行われているが、利用者への影響に考慮して最小に抑えるようにしている。離職して職員が交代する場合は、引継ぎなどを十分行い、利用者の特徴を把握し、声かけをして早く馴染んでもらえるように努めている。		
。					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は県グループホーム連絡会の研修や他の老人施設での研修に参加している。新任職員については3か月間、利用者ごとの身体の状況やケア全般の方法や注意事項を教えている。また、外部研修や他ホームの見学にも参加するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会に参加し、他ホームの見学や実習に行っている。職員にとってよい刺激になり、サービスの質の向上の参考となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族が安心して納得できるまで、見学やホームで過ごすよう伝えている。ホームに慣れるために、馴染みの家具や食器を持ってきたり、帰宅願望があれば馴染みの場所等へ連れて行ったりして、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に、季節の行事や家事を手伝ってもらい、また利用者の経験から調理の方法等を教えてもらうなど、互いに支えあい、ともに生活を楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らしについての希望を、言葉や行動を観察して把握し、それに沿えるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間のカンファレンスや家族との面会時、家族会等で出された意見を取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じ職員間のケアカンファレンスで介護計画を見直している。また、心身の状況等に変化が生じたときは、その都度見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、看護師と24時間連携し利用者が重度化した場合の対応や、月に一度看護師が訪問し健康管理が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が月2回往診し定期健診を受けている。また、必要な場合、適切な医療機関で診察を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制により、看護師と24時間連携し、重度化した場合、かかりつけ医及び家族と話し合い、終末期のあり方についての方針が示されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報は適切に保護されている。言葉づかいや声の大きさ等不適切な場合があり、誇りやプライバシーを尊重しているとは言いがたい。	○	職員は、年長者である利用者の誇りを傷つけることがないよう、言葉かけには十分注意されるよう希望する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりを優先させず、ホームでのカラオケ・ゲームなどのレクリエーション、また外出については、できるだけ希望に添えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに配慮した献立を作成している。利用者によっては食事の準備や盛り付けなど職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ隔日に入浴しており、本人の希望にあわせ、午後2から4時間内に入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活において利用者それぞれ掃除、洗濯物干しやたたみ、プランターの水やりなどの役割を持ってもらっている。また、レクリエーションや体操、カラオケ、季節のイベント(ひな祭り、夏祭、クリスマスなど)などで楽しく過ごしてもらうよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近くのスーパーへの買い物や、季節によりドライブに行っている。またホーム内のゲートボール場や近くの公園へ散歩に行ったりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、日中(午前7時頃～午後7時頃)は鍵をかけていないので、いつでも自由に入出入りできる。居室には鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回防火・避難訓練を実施している。また、緊急時対応のマニュアルを掲示している。災害対策については運営推進会議でも議題としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は油物等、夕食は野菜を多くし旬のものを取り入れた料理を作っている。食事の量は一人ひとりの状態に合わせている。水分の摂取量が1日4回、お茶等で不足しないよう注意し、食事量、水分摂取量とも記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は気持ちよく過ごせるよう清潔にし、ホームの行事の写真や絵を掲げており、赤ちゃんの顔写真も貼られている。光や音も適当である。部屋から眺められる山や、遠景の展望が大変よく、居ながらにして季節感を感じることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、家具等を本人と家族が相談して持ち込み、また貼り絵を壁に掲げたり好みの手芸品を置いたりして、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		